

二〇一六年二月二六日

和菓子屋の棚に小さき内裏雛
溪声の高鳴りて山覚めんとす
野地蔵にちよつと裾分けつくしんぼ

満天

宏虎

菜々

二〇一六年二月二〇日

神鷄ののどを震はす春の水
つゆけしき句碑の仮名文字なぞり読む

なつき

菜々

二〇一六年二月二五日

あたたかや一会の人が道案内

ひかり

二〇一六年二月二四日

ふきのとう湯に放つ時香を放つ

とろうち

二〇一六年二月二三日

もぐら道走る畑に物の芽出づ

よし女

二〇一六年二月二二日

宮参り祝ふがごとく梅日和

こすもす

温顔の石の不動に春日影

ひかり

女塚訪ふ人もなく梅寒し

菜々

二〇一六年二月二一日

首尾問へば多分と笑顔大試験

宏虎

土塊に種の浮き出し春の雨

治男

鳥影の発止発止と梅の丘

菜々

毎日句会みのる選・二〇一六年二月二八日